

昔は此郡をかすかべといひて、愛智、山田、春部、丹羽、葉栗、中島、海部、智多を尾張の八郡といひ來りしが、いつの頃にかありけむ。海部郡をわがちて海東、海西の二郡とし、治承四年に書る頼朝將軍の熱田寄附狀に、海東郡といふ事見えなれば、是よりさきに東西二郡にわけられたる事は、ちたなり。山田郡を廢して、其地を多くかすかべの郡に合せ、また愛智郡にも屬たりしを、いつとなくかすがるといひならひて、文字も今のごとく書替しなり。今山田莊といへる地は、皆いにしへ山田郡に屬し、村里也。三代實錄貞觀十九年、但馬國獲白雉、尾張國樹連理云々、是等の佳瑞によりて元慶と改元ありし詔に、宜復尾張國百姓當年徭役、春部郡免當年之庸と云るし、和名類聚抄に春部加須とあるをばじめ。延喜民部式、塵添瑩囊抄等の古き書どもに、多くは春部とかけり、又延喜神名式、拾芥抄、梅花無盡藏、新撰類聚往來等に、春日部と、日文字を添て書るもあり。三國傳記、また三の九天玉の拜殿にかけたる元龜元年の鰐口の銘、同三年に奉納したる熱田の御寶物の天滿宮の畫幅等に、春日郡とかける類も少からず。又今の文字を用ゐる事も、ふるく四五百年より以前の事にて、大須の眞福寺に所藏せる十住心論、聞書の終に、應永十六歲己丑、尾州春日井郡云々と見えたり。

〔張州府志十一〕春日井郡 疆域 東西九里、南北四里、東至三河加茂郡、東北至濃州可兒土岐二郡、西至海

東中島二郡、南與愛智郡接壤、此郡廣大、統一百六十餘邑。

〔三代實錄三十一〕陽成元慶元年四月十六日丁亥、詔曰、略去正月即位之日、但馬國獲白雉、二月十日、

尾張國言、木連理閏二月二十一日、備後國貢白鹿、略其葦田郡勿輸。今年之調、春部及養父郡並免當年之庸。

〔三代實錄四十八〕光孝仁和元年十二月廿九日己卯、尾張國春日部郡、大領外正六位上尾張宿禰弟廣男

安文安鄉二人、始自中男迄子不課、總計課役進調庸物、略下

〔日本書紀二十九〕五年九月丙戌、神官奏曰、爲新嘗下國郡也、齋忌、齋忌此云踰既則尾張國山田郡、次須岐也。

山田郡

〔日本書紀二十九〕五年九月丙戌、神官奏曰、爲新嘗下國郡也、齋忌、齋忌此云踰既則尾張國山田郡、次須岐也。